平成24年度 第12回府中市環境審議会会議録(要旨)

平成25年3月5日(火)
午後6時半から8時半まで
府中駅北第2庁舎3階会議室

- 1 出席委員 安藤正邦委員、戸田忠良委員、中嶋正樹委員、石上祥光委員、石谷真喜子委員、増山弘子委員、金子富紀委員、竹内章委員(副会長)、塚原仁委員、朝岡幸彦委員(会長)、田中あかね委員、室英治委員(12名)
- 2 欠席委員 海藤茂委員、比留間吉郎委員、馬場利之委員(3名)
- 3 事務局 加藤環境政策課長、遠藤環境政策課長補佐、渡邊環境改善係長、監物環境保全活動センター整備担当理事、環境改善係海野サンコーコンサルタント(株)3名
- 4 傍聴者 1名
- 5 議事 報告
(1) 次期府中市環境審議会公募委員の応募状況
(2) 農業従事者アンケート調査の集計結果
議題
(1) 府中市環境基本計画中間答申について
(2) その他
- 6 資料
 - ・第11回環境審議会議事録
 - 資料1 府中市環境基本計画策定アンケート調査報告書(修正版)
 - 資料2 府中市環境基本計画策定についての中間答申(案)
 - 資料3 総合計画と環境基本計画のスケジュール(イメージ)
 - 資料4 府中市環境基本計画策定スケジュール

【要旨】

1. 報告

事務局 第11回環境審議会議事録を事前に送付してあるので、修正があれば、3月19日 火曜日13時までメール、ファックスにて受付し、期日までになれば、この議事内容で公表する。

会長 前回第11回審議会の議事要旨に修正はあるか。

委員 6ページ真ん中の「例えば渋谷では英語の学習を広め」は、渋谷ではなく品川に訂正をお願いします。

会長 会議終了までに気づいた点があれば申し出をお願いします。なければ、第11回議事要旨は確定したこととする。

2報告事項(1)次期府中市環境審議会公募委員の応募状況の報告を事務局から願います。

事務局 2月11日からホームページに掲載し、3月1日 金曜日まで募集した。募集人数を超える応募があった。今後は、府中市環境審議会公募委員の選定委員会を開催し、公募委員4名を選定する。選考結果は、3月下旬に応募者に通知する。

副会長 応募は何名か。

事務局 9名であった。

会長 2報告事項(2)農業従事者のアンケート結果の報告を事務局から願います。

事務局 資料1府中市環境基本計画策定アンケート調査報告書修正版60ページの第3章に農業従事者アンケート調査結果の掲載がある。17票の配布のうち12票の回答があり、回収率は70.6%であった。詳細はコンサルタントから説明する。

コンサル (農業従事者アンケートの説明)

会長 アンケート調査報告書は次期環境基本計画策定の参考材料とし、基本的な意味付けは次期審議会の議論とする。報告事項を終了とする。

議題(1)府中市環境基本計画中間答申について説明を事務局から願います。

事務局 議題(1)府中市環境基本計画中間答申については、前回からの継続審議となっている。委員からの意見を基に整理し、資料2のとおり中間答申案を修正した。

(修正箇所の説明)

資料3総合計画と環境基本計画のスケジュールイメージを作成した。計画期間について「総合計画に合わせて8年間とする案」、「総合計画と1年ずらし、次期は9年間とし、その後は8年間とする案」、「現環境基本計画に合わせて10年間とする案」の3案を作成した。事務局としては、前回の審議会の意見を踏まえ、当初に示した10年間とする。中間見直しを5年後とすると、総合計画の前期基本計画と1年ずれ、計画期間を10年間とすると、総合計画の後期基本計画と2年ずれるが、市の施策が大きく変われば、環境基本計画の期間中も見直しを検討する。

中間答申案にある内容を審議いただきたい。

会長 前回の審議結果を踏まえ、改めて中間答申案の説明があった。こなれた文章ではなかったもので、修正したものを作成していただいた。意味が通らない、つじつまが合わないなどがあれば、指摘していただきたい。8・9・10年間と3案あるが、計画期間については保留となっていたので、今日の議論のうえ決める。事務局の案は10年間であるが、10年間で良いのか、または8年間、9年間が良ければ、議論により変更は可能である。

市長への答申は、中間答申書とアンケートになるのか。

事務局 はい。

会長 アンケートに文言などのミスがあれば修正するが、重要なのは責任を持って出さなけ

ればならない中間答申である。そういう意味でもう一度、確認いただき、内容に何かあれば、審議する。質問、意見などはあるか。

委員 1番の「市民自らが市民目線から」は、「市民目線から」が必要ない。省いた方がわかりやすい。

会長 「市民自ら」か「市民目線から見た」のどちらかを消せば、しつこさは無くなる。「市民自らが府中市における環境課題」にし、「市民目線から見た」を削る。「市民自らが府中市における環境課題や今後重要とされる取組について、きめ細かく議論されたものである。」に修正する。

委員 3番に「わかりやすい体系図として表現すること」となっているが、図として表現するのか。

事務局 環境基本計画の48・49ページに体系図が記載されているので、体系図と表現した。

会長 図にすることが目的ではなく、わかりやすい体系にすることが目的なので、「図」をとっても良い。「次期府中市環境基本計画の策定にあたっては、施策体系について十分に検討し、市民に広く理解され、わかりやすい体系として表現すること。また、子どもや若い世代の意見を積極的に反映できる方法が検討される必要があること。」とする。

委員 4番であるが、PDCAのサイクルの話が審議会で出ているので、2行目の「実施状況の評価ができ、かつ、実現可能なものとする。」を「実施状況の評価と改善及び環境状況の変化に伴う見直しができ、かつ、実現可能なものとする。」にした方が良い。

会長 計画期間の議論につながるが、PDCAのAは計画自体の見直しである。計画自体の見直しを前提にして良いのかが問題になる。原則は計画の見直しはしない。計画を見直すと、何のために計画をたてたのか、理屈のうえで問題になる。例えば、8年から10年の長期計画を途中で見直すと、なぜ長い計画を立てたのか、短い計画にすれば良いのではとの議論になる。PDCAのとらえ方は良いが、計画の見直しを前提にするとつじつまが合わない。

委員 10年間の計画でも5年目で見直すので、包含していく意味では修正は必要ない。

会長 途中の見直しは、前期・後期計画と同じことなので、最初から改定が予定されている。計画の立て方は次期審議会に委ねるが、10年間の計画であれば、基本的に前期計画の5年間については次期審議会で議論して決め、後期計画については10年間の枠を変えずに、その時点での審議会で策定する。総合計画も同様である。PDCAを無理に入れずに評価のみ行い、後期計画に反映させれば良い。

委員 1番の4行目にアンケートの内容が細かく書かれているが、市民検討会とアンケートが同列であるのはどうなのか。「アンケートの意見を十分反映させます」となっているのは良いが、細かく書く必要があるのか。例えば「市民に幅広く」などの表現が答申の内容としては良い。

会長 もう少し簡単に「幅広い市民を対象とした」とする。

委員 4番の「位置付ける取組」とあるが、「位置付ける」とした意図はあるのか。

事務局 4・5章に、取組について書かれてあり、整合性をとり「位置付け」を入れた。

委員 強調ということで、意図がなければ、もっと簡単で良い。

会長 「位置付ける取組」は必要がなく「次期府中市環境基本計画は」としても十分意味が通じる。

委員 4番に「整合」とあるが、ふつうは整合性という言葉には性が入るが、性がないのはなぜか。

会長 性がつくと述語が変わる。「整合性をはかり」とは言わないので、「整合性を取る」など別の言葉になる。「整合を図り」はあまり聞かない言葉であるが、「整合を図る」という言い方があるので、これで良い。

最後の5番目の計画期間は、総合計画の計画期間との問題になる。8年間の案は、総

合計画の計画期間と合わせる考え方である。9年間の案は、総合計画と合わせた8年間とすると、反映した環境基本計画を策定できないので、計画期間を1年ずらし、次期からは総合計画の計画期間とは1年遅れとし、その後は同じ8年間の計画期間にする考え方である。事務局の10年間の案は2年ずれるが、整合が合わなくなれば、途中で見直す考え方である。第7次総合計画は平成34年からとなるが、残り2年で環境基本計画を見直すのか。

事務局 第6次総合計画では約2年前から見直しを始めているので、第7次総合計画では、平成32年から見直しを始めて2年間で策定し、平成34年4月から開始のスケジュールとなる。

会長 準備期間に2年かかるのはわかるが、総合計画がある程度固まったものを反映しないと意味がない。残り2年間の計画の見直しを審議会に諮るのか。見直しには1年かかり、計画の実行は1年のみとなる。1年分の実施計画では非常に効率が悪い。10年間の途中で総合計画とずれたら見直せば良いとのことであったが手遅れになる。途中で見直すのであれば、15・20年と長くするのであればわかるが、残り1・2年のために見直すことはしない。

事務局 平成33年4月には第7次総合計画策定の道筋が見え、これに基づき市民アンケートや環境基本計画の策定を行えば、残り2年間を使えるので、計画期間を10年間とした。

会長 見直すことを前提として計画は作らない。2年ずれる方が良いのか、1年ずれる方が良いのかの議論である。現行と同じ10年間とすると、総合計画が8年間であるので、更新するたびに計画期間がずれるが、それで良いのかを議論している。10年にこだわることにに対して質問をしている。

副会長 第7次総合計画は8年間であることは決まっていない。10年間に戻すこともありうる。不透明な中では審議する意味がない。なぜ総合計画に合わせなければいけないのか。従来の10年間で良い。

会長 次期環境基本計画の次の計画をいつから始めるかが問題であり、次期計画は何年間とすることが問題ではない。次期計画の次の計画を平成34年から実施で計画を立てる方が良いのか、平成35年からが良いのか、平成36年からが良いのか、それにより、8・9・10年間のどれが良いのかが決まる。次期環境基本計画の計画期間が何年間になるのかは、総合計画の計画期間との関係から考えれば良い。出だして1年ずらすのか、2年ずらすのかは、大きな問題である。総合計画と整合させる議論をしているのに、期間がずれたら見直せば良いという論理はない。

事務局 10年間に特段こだわりはない。前回の審議会で、総合計画の終了時点を合わせた8年間、現行計画と同じ10年間、その中間の9年間、の3つの提案があった。第5次総合計画と現環境基本計画は同じ平成25年度が終了年であり、次期総合計画と次期環境基本計画を同時期に策定中であるが、審議会の意見の中に、総合計画の中身が確定しなければ、環境基本計画の内容を具体的に議論しづらいとあったことから、事務局で検討したところ、次期環境基本計画は10年間で実施し、総合計画と整合を図る点では2年ずれるが、10年間が一番やりやすいと考える。

委員 総合計画の8年サイクルを受けて、環境基本計画を10年間にしたいのか。それが繰り返されるとタイムラグが大きくなる。

事務局 総合計画の8年間も固定ではない。現環境基本計画を10年間と決めていただいた中で、2期目も10年間、3・4期以降も10年間と決めるのではない。総合計画と環境基本計画の計画期間を合わせるか、合わせないかの議論は必要である。事務局の案は10年間とし、不具合が生じれば、次期で見直すことも考えている。

会長 仮に10年間とし、総合計画を8年間とすると、次の時点で、総合計画と合わせた方が良くなれば、6年間で計画を作ることになり短い。素直に考えれば10年間にする

理由はなく、次の見直しで6年間となると余計に難しくなる。

副会長 上位計画の総合計画の下に多くの下位計画があるが、元々、総合計画とは合わせていない。下位計画はそれぞれ別々の年度でスタートしているので、総合計画の計画期間が変わればずれが生じる。現環境基本計画は第5次総合計画の計画期間と偶然にあっていたが、合わせたわけではない。なぜ環境基本計画だけが総合計画に合わせていけないのか。

会長 個別計画とずれが実態としてあることはわかるが、合わせることができるのに、合わせない積極的な理由がない。様々な経緯で計画期間にずれが生じるが、計画期間を決められるのであれば、合わせることに筋であるのに、環境基本計画はずれて良いという理由がない。

委員 総合計画でイメージされたものや実現するための理想像がずれても良いのか。

副会長 事務局は10年間の案であるが、予算的なものを考慮して計画期間を設定したのか。

事務局 環境基本計画に予算を書き込むわけではない。施策の方向性を決めるものであり、細かい施策までは環境基本計画に網羅しない。

委員 網羅はしないが、リソースがずれて良いのか。

会長 予算の話は分かりやすいが、総合計画とは関係なく作ることになる。

事務局 総合計画と環境基本計画がずれて良いという表現ではない。予算的に合わせる内容ではあるが、総合計画と環境基本計画では、細かい施策までは載せずに大きな政策を検討する。細かな施策は、計画に付随している行動指針、地球温暖化対策地域推進計画などで補完する。

9年間の計画としても1年間のずれが生じ、年数を重ねていけば、5年、10年と差が開くのは10年間と同様である。その議論では、総合計画と合わせることしか結論としては出てこない。作り込みでは、上位計画の総合計画の中身が見えないと個別計画が議論しづらい。10年サイクルで計画を実行していく中で、総合計画に大きな変更があった時に修正するのも一つの方法である。

委員 タイムスパンが違うのは、総合計画と環境基本計画を整合させる意味でこの様にしたのか。

事務局 はい。

委員 整合を図るためにスパンを変える方法もあるが、総合計画の策定中に情報がスムーズに環境基本計画の方に入れば、タイムスパンを変えなくても良いのではないのか。

会長 情報を反映できる可能性はある。市民協議会と市担当職員が積み上げたものがたたき台となって起草委員会に行くので、担当課の意見が全く入らないわけではない。どの様に反映させるかの問題があり、保障されているわけではない。計画期間をそろえる方が一番良い。

委員 総合計画の内容が見えない中で、同時進行で次期環境基本計画の策定が難しいのであれば、次期は9年間で、以降は総合計画の策定から1年後に環境基本計画を策定した方が一番やりやすい。

会長 事務局の説明では、10年間にする理由がないと聞こえる。10年間の内につじつまが合わなくなれば、見直せば良いとの考え方なのか。1年ずれるにしても、全く合わせるにしても、総合計画に合わせて環境基本計画を立てるのが私の提案である。総合計画と環境基本計画の計画期間はずれるのが当たり前なのだから、期間は関係なくても良いのでは、というのが副会長の提案である。どちらの立場をとるかが大きな問題である。

委員 計画を策定するだけであれば、今の議論で良いが、実施し、評価し、次期計画に反映する期間としては4年間ではどうなのか。5年間あれば今までどおり構えてできるが、2年間はアンケートに使うのであれば、4年間では実施が2年間となる。

会長 アンケートに2年間はかけない。2年間かけて計画を策定すると考えれば良い。最後

の2年間は次の計画を準備する期間と考え、5年間あった方が良いのか、4年間でできるのか、と考えると良い。

委員 総合計画を作るときには、各個別計画を考えて8年間とするのか。他の個別計画は、総合計画とは違う計画期間なのか。

会長 総合計画は、各個別計画の計画期間は一切念頭に置いていない。8年間で良かったのか、10年間にすべきであったのかは、議論の余地があるが、8年間に決まった。総合計画は上位計画であるので、各個別計画が上位計画に計画期間を合わせるのかどうかである。環境基本計画は、合わせるのか、合わせない考えを取るのかの違いである。合わせるができるチャンスなので、環境基本計画は合わせたらどうかとの提案である。

委員 上位計画があつての環境基本計画と考えれば、合わせるべきである。

委員 現環境基本計画に計画期間は総合計画と同じにするとの記載があるので、総合計画の8年間に合わせる方が良い。

会長 合わせた方が良いとの意見が大半である、合わせなくて良いという積極的な論点があれば発言を受けたい。

副会長 9年間の意見もある。総合計画の内容が決まらなければ、環境基本計画の作成を進めることが難しい。総合計画ができた後に環境基本計画を作るスパンにしないと、整合が取れたものが作れない。時期が全く同じであると、総合計画の内容が反映できず、結果的に良い計画ができないなどの問題が出る。9年間にすれば、総合計画を見ながら1年後に環境基本計画を作ることができる。

会長 9年を繰り返すのではなく、次期計画では9年間として1年ずらすことにより、その後を総合計画と同じ年数にすれば、内容を合わせていける。

5番は「次期府中市環境基本計画の計画期間は、平成26年度から平成34年度までの9年間とすることが望ましい。また、それ以降の計画は、総合計画の計画期間に合わせることを望ましい。」とする。文言を修正し、中間答申の案文とする。

ただ今確認した文案を持って中間答申とする。

その他事務局から何かあるか。

事務局 (資料4府中市環境基本計画策定スケジュールの説明)

会長 次期環境審議会の来年度のスケジュールの説明であつたが、何かあるか。

委員 スケジュール表の各月が3つに分かれているが、前半、中間、後半という意味か。

事務局 はい。

会長 その他はあるか。

事務局 第11回環境審議会の会議録に修正があれば、3月19日火曜日13時までにメール、FAXで受付ける。

会長 議事録は会議の中で確認しなければならない。今後の会議を開催できないので、第11回の議事録は、今この場で確認して決める。

今回の第12回の議事録は、直ぐこの場で審議することができないので、事務局に一任し、各委員に送付後に修正などがあれば事務局に知らせることとする。

事務局 今期の環境審議会の任期は4月30日までであるが、本日が最後の開催となる。来期のスケジュールを説明したが、このスケジュールに沿って、来年度は開催する予定である。日程を調整のうえ、3月中に会長及び副会長から市長への答申をお願いする。

最後に環境政策課長から挨拶する。

課長 平成23年5月17日の第1回府中市環境審議会の委嘱式から、本日までに12回の審議会を開催した。2年間の任期が間もなく終わるが、任期は4月末までなので、その間に何かがあれば相談させていただく。本来であれば市長もしくは部長がお礼を申しあげるところであるが、本日、出席できなかつたので、皆様には市長からよろしく願いますようにと言われている。5月1日から新しい任期となるが、5月1日の開催が難し

いので、5月中旬に第1回を開催する。引続き協力をお願いする。
ありがとうございました。

会長 本日はこれにて終了する。皆様、長い間ありがとうございました。

(閉会)
以上